

報 告 書

開 催 日 時	令和 7 年 6 月 20 日 20 時 00 分 ～ 21 時 30 分		
自治協議会名	玉滝地域まちづくり協議会	開 催 場 所	玉滝地区市民センター
出席議員	森中秀哲、内原 篤、大石亮子、宮崎栄樹		
	班 長	森中秀哲	記録・報告者 宮崎栄樹
参加人数	18 名		

【主な意見・提言等】

① 空き家対策について

- ・冒頭、議員より情報提供として、伊賀市の空き家対策の取組を紹介
- ・移住者に住みたいと思ってもらうことが大事だが、伊賀市には何があるのか。
- ・何で玉滝がいいのか？と移住者に聞いたことがある。市街地のようなわかりやすいコンテンツもなく、住民は魅力に気づかないことがある。

② 農業

- ・冒頭、議員より情報提供として、農業振興計画の策定、大山田農林業公社の中間管理の取組、阿波地域の獣害対策を紹介
- ・大山田は条件がいい農地があるが、玉滝は条件が悪い農地が多い。60 代、70 代の農家が農地を何とか守っているがペイしない。農水大臣の言う農機具のリースは無理。地域の中の農家だけで農地を守っていけるのか。不安なくやるなんて考えられない。草刈り中に亡くなった人もいる。農家組合を作ったが人材がいらない。鹿の獣害も酷い。そんなところを将来どうするのか。
- ・営農組合を解散する。そば、小麦がとれなくなったため。担い手もいない。道の駅の蕎麦屋も辞める。
- ・田を八反やっているが、中山間や多面的機能の直接支払いは次の 5 年が来たら協定を抜く。今後耕作放棄地が山のように増えてくるし、空き家も増えてくる。
- ・営利企業は、条件が悪い農地に手を出さない。玉滝は重粘土地帯で、田植え機やコンバインがはまりやすい。土手も高い。
- ・草刈りを半日でしていたが、一日かかるようになった。
- ・西山区の棚田の維持には補助金が出ているのか
- ・減反政策が無かったら小さな田んぼも続いていたのでは。
- ・子供は農家の親を見て、同じ道を歩きたいと思うか。
- ・農家は頑張ってきた。現状は、小さい農業を潰してきた結果だ。

伊賀市議会議長 様

令和7年7月1日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和7年度 地域意見交換会 1 班

班長 森中 秀哲